

平成 30 年度

大阪大学

文学研究科・文学部 インターンシップ報告書

編集・発行

大阪大学 文学研究科・文学部
教育支援室

560-8532 大阪府豊中市待兼山町 1-5
令和元年 7 月

平成 30 年度

大阪大学

文学研究科・文学部 インターンシップ報告書

編集・発行

大阪大学 文学研究科・文学部
教育支援室

560-8532 大阪府豊中市待兼山町 1-5
令和元年 7 月

目次

はじめに・・・・・・・・・・	教育支援室インターンシップ専門委員（文学研究科教授）	堀江剛	1
インターンシップ概要・・・・・・・・・・	文学研究科教授	藤岡穰	2
京都国立近代美術館インターンシップ報告・・・・・・・・・・	文学研究科博士後期課程	谷岡彩	4
インターンシップ概要・・・・・・・・・・	文学研究科教授	圀府寺司	6
国立国際美術館での一年・・・・・・・・・・	文学研究科博士前期課程	竹花藍子	7

はじめに

本報告書は、平成 30 (2018) 年度に大阪大学文学部および大学院文学研究科で行われたインターンシップ、ならびにその準備や事後指導を行っている授業について報告したものである。実習先・人数は以下のとおりである。

- 京都国立近代美術館 (東洋美術史) 大学院生 1 名
- 国立国際美術館 (西洋美術史) 大学院生 1 名

報告書を読むと、インターンシップに参加した学生にとって、実習先での体験がかけがえのないものであったことが読み取れる。学生たちを迎えて指導してくださっている受け入れ諸機関の方々に、この場を借りて、心よりお礼を申し上げる。

文学部・文学研究科としての報告書のとりまとめは平成 16 年度から始まるが、関連授業が毎年開講され、現在のような体制となったのは 18 年度である。18~29 年度の 12 年間に、音楽・演劇・美術・映画の各方面のインターンシップが行われてきた。ただし映画関係は、26 年度末に担当教員が定年退職したため、現在は開講されていない。参考のために、18~29 年度にインターンシップに参加した学生数を掲げておく。

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
音楽	5	3	4	2	4	6	6	3	3	3	3	6	0	48
演劇	4	4	4	3	2	6	2	4	3	0	3	6	0	41
美術	0	0	0	2	2	1	1	1	0	0	0	2	2	11
映画	1	0	1	0	0	0	1	4	0	-	-	-	-	7
小計	10	7	9	7	8	13	10	12	6	3	6	14	2	107

(単位修得を目的とせず、インターンシップに参加した学生の数を含む)

教育支援室インターンシップ専門委員 (文学研究科教授) 堀江 剛

インターンシップ概要

文学研究科（東洋美術史研究室）教授 藤岡 穰

日本・東洋美術史研究室では、学部3、4年生、院生が合同で参加する演習「東洋美術史の諸問題」をインターン科目と定め、近畿一円的美術館、博物館における学芸員のインターンへの参加を推奨している。2018年度には博士後期課程の院生1名が京都国立近代美術館のキュレトリアル・インターンに参加したので、同インターンの概要を以下に報告する。

京都国立近代美術館では、毎年度「キュレトリアル・インターン」を募集されている。美術館活動を支える学芸職員の業務に関心を持ち、将来美術にかかわる仕事に就くことを希望する者を対象に、美術館での学芸業務の体験を通じて、今後の美術館活動を担う人材の育成に寄与することを目的とした制度である。その概要は以下のとおり。

1. 対象・資格

次の（1）～（3）を満たす者。

（1）美学、美術史学、博物館学、美術館教育など美術館に関わる専門分野を専攻する者。

（2）次の（ア）～（ウ）のいずれかに該当する者。

（ア）大学院（博士課程前期・修士課程をいう。以下同じ）に在学しており、実習期間（別記）終了時までは在籍を予定している者。

（イ）大学院を修了した者。

（ウ）大学院に平成28年4月時点での入学を予定している者。

（3）実習期間（別記）を通じて、当館へ通勤可能な者。

2. 募集人数

2名（応募状況により、人数は変更となる可能性あり）

3. 実習期間

毎年4月1日～翌年3月31日（1年）

上記のうち、原則として、平均して週に1～2日程度を実習従事日とする。

4. 実習場所

京都国立近代美術館 学芸課

5. 実習従事時間

10時～17時30分（うち昼休憩1時間）

6. 実習内容

当館学芸課が担当する諸業務を理解するとともに、各人の専門性を活かした作業、当館で進行する展覧会事業等に、当館学芸課職員の一員として携わる。

具体的な作業の例としては、企画展やコレクション展にかかわる準備作業。図書など第二次資料の調査や整理など。

7. 応募方法・締切

下記「エントリーカード」及び「小論文」の提出により応募。

（1）エントリーカード：ホームページからダウンロードのうえ、必要事項を記入・印刷し、顔写真を添付。

（2）小論文：「京都国立近代美術館でのインターンの経験を生かして、将来目指したいこと」

をテーマとし、A4 用紙（縦置き）1 枚に、横書きで 800 字程度（640 字以上～960 字未満の範囲）でまとめる。

9. 選考方法

一次審査（エントリーカード及び小論文による書類選考）の上、二次審査（面接）を行い決定。

10. 待遇

本実習に対する報酬は無給とし、必要経費（食事代等）は、各自の負担とする。ただし、交通費については当館が負担する（上限あり）。また当館の負担にて、インターンシップ中の傷害保険に加入する。

以上のとおり、毎年 2 名程度と狭き門ながら（本年度は 4 名が採用されたとのこと）、近代の日本画（南画）を主な研究対象としている博士後期課程在学の院生をインターンとして受け入れていただいた。原則として週 1 回の実習であったが、若手の学芸員の方を中心に、現場での実践的な業務についてご指導をいただき、2019 年度にも引き続き受け入れを継続していただいている。この場を借りて感謝申し上げる次第である。

京都国立近代美術館インターンシップ報告

文学研究科博士後期課程2年 谷岡彩

■ 研修先

京都国立近代美術館

■ 研修期間

2018年4月1日～2019年3月31日

■ 参加の動機

日本、世界へ、日本の近代美術の魅力を発信する学芸員を目指している。近代日本画をはじめとする多くの優れた作品を所蔵する同館で、現場の仕事を実際に体験し、作品の取り扱い、展覧会の企画・運営について学ぶとともに、美術に関する知識と理解をより一層深めるため、参加した。

■ 研修内容

同館学芸課が担当する諸業務を行うとともに、専門性を生かした作業、展覧会事業等に学芸職員の一員として携わった。具体的には、下記のようなワークショップなどの関連イベントの運営補助、企画展やコレクション展に関わる準備作業、資料の調査や整理などを行った。

- 「感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の運営補助
ワークショップ「てくてく・くんくん in 岡崎」（2018年5月13日）、京都国立近代美術館オープンデー「美術のみかた、みせかた、さわしかた」（8月10日、11日）の運営補助、記録を担当。触図と文章により同館の所蔵品を紹介する教材「さわるコレクション」の作成、発送作業等。
- 企画展・コレクション展に関わる準備作業
企画展「バウハウスへの応答」（2018年8月4日～10月8日）で上映された映像作品「地平に0 Horizon」（オトリス・グループ、2018年、作家蔵）の日本語訳作成。
平成30年度第2回コレクション展「特集展示：W. ユージン・スミスの写真」（2018年5月30日～7月29日）、平成30年度第5回コレクション展「上野伊三郎とインターナショナル建築会」（2018年12月19日～2019年2月24日）の展示補助。
- 資料調査、整理
上野伊三郎の授業ノートやスケッチ、建築図面、写真等の一次資料、上野伊三郎旧蔵図書の調査。機関誌『HOUSING AND BUILDING』（International Housing Association）、機関誌『インターナショナル建築』（インターナショナル建築会）等文献の調査・整理。
- その他
図書整理、同館の展覧会に関するTwitterの集計作業、Facebookでの作品紹介等。

■ 感想

京都国立近代美術館でのインターンでは、多くの新たな経験ができた。特に、コレクション展「上野伊三郎とインターナショナル建築会」では、同館学芸員とともに資料調査、展示資

料の選定、展示構成、キャプション・年表作成を担当した。作品・資料の扱い方や情報整理の方法、わかりやすく魅力的な展示方法等を学ぶことができた。映像や実寸大の設計図を使っ
ての展示は初めての経験で、その他専門分野ではないからこそ多くの新たな発見があっ
た。また、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の一環で、同館が実施
中核館として行う「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」のワークショ
ップや打ち合わせにも積極的に参加した。同事業は地域の盲学校や大学等と連携し、「みる」
ことを中心としてきた美術館のあり方を問い直し、障害の有無を超えて美術作品を楽しむこ
とのできるプログラムを創る取り組みである。五感を使って楽しむプログラムやチラシ、触
図などの企画・作成に関わることで、作品の新たな魅力を発見でき、より多くの人々に美術
作品の魅力を伝える方法について考える貴重な経験となった。

インターンシップ概要

文学研究科（西洋美術史研究室）教授 園府寺司

平成 30 年度の美術に関するインターンシップは一名の学生が国立国際美術館のインターン公募に応募して採用された。これは、1 学期および 2 学期開講の「西洋美術史演習」受講生から希望者が応募したものである。

国立国際美術館 学芸インターン 平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで。基本的に週一回のペースでインターンシップに参加。展覧会企画準備の補助、カタログ編纂補助のほか、『クリスチャン・ボルタンスキー展』カタログの解説執筆の一部を担当した。主に関与した展覧会の会期は以下の通り。

クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime

会期：2019 年 2 月 9 日（土）—5 月 6 日（月・休）

国立国際美術館（大阪 中之島）

国立国際美術館での一年

文学研究科博士前期課程 1 年 竹花藍子

■ 研修先

国立国際美術館

■ 研修期間

2018 年 4 月 2 日～2019 年 3 月 31 日（2019 年度も継続）

■ 研修内容（[]内は関わった展覧会名）

- 展覧会関連イベント補助 [開館 40 周年記念展/視覚芸術百態/プーシキン美術館展/ニュー・ウェイブ/クリスチャン・ボルタンスキー]
- 展示作業見学・補助[開館 40 周年記念展/視覚芸術百態/プーシキン美術館展/ニュー・ウェイブ/クリスチャン・ボルタンスキー]
- カタログ校正[クリスチャン・ボルタンスキー]
- カタログ項目執筆[美術のみかた 自由自在]
- 資料整理（配架作業、データ入力、スクラップ）

■ 感想

2018 年度学芸課インターンとして 1 年間美術館業務に従事するなかで、予想していたよりもはるかに多くの業務に関わらせていただいた。展覧会関連記事のスクラップや所蔵作家関連の情報収集に始まり、作品の展示作業に至るまで、作品収集と展示という美術館の根本に関わる作業を体験させていただくことができた。

1 年間インターンを経験してみて、国立国際美術館資料室での作業と企画展「クリスチャン・ボルタンスキー -lifetime-」関連の作業が特に印象的であった。2018 年度の前期は展覧会関連の業務が少なく、主に新聞記事のスクラップや所蔵作家の関連情報の整理を担当する機会が多かった。美術館が収蔵作家に関わる情報収集を行っているということは認識していたが、他館で行われた展覧会のフライヤーを集めたり、新聞記事をスクラップしたりといった具体的な作業までには想像が至らず、こんなに細かい情報も集めるのかと度々驚いた。作家情報は、書籍や各種メディアの記事にとどまらず、作品が出品されている展覧会情報や、作家または作品に言及のある館報など多岐に渡り、常に最新の情報に気を配り収集する必要があると学んだ。

担当させていただいた展覧会のなかでも規模が大きく、作業も多かったのが「クリスチャン・ボルタンスキー -lifetime-」である。海外から搬入された作品を展示するため、クレートの内容物や展示過などを、より詳細に記録しておく必要がある。展示作業中は主にこの記録作業に従事した。展示期間中はインターンが交代で記録作業にあたり、毎日の作業の引き継ぎなど協力しあって行う活動が多かった。搬入・搬出作業以外でも、カタログの校正や指示書の翻訳作業などは複数のインターンで相談しながら作業を進めた。展覧会が多くの人々の協力のもとにつくりあげられるものであることを、身をもって知ることができた貴重な体験であった。作業量も多く、外国語を用いることによる困難さもあったが、その分完成したカタログを見た時や、無事に展覧会がオープンできた時の達成感と嬉しさはひとしおであ

った。

1年間美術館活動に携わってみて、美術館の業務は想像以上に多岐にわたるものであると感じた。この一年で全体像を把握できたとは到底言えないだろう。しかし、美術館業務について学んだこと、業務を通じて得た体験によって、美術館の活動や自らの目指す学芸員像をより具体的に想像できるようになった。インターンシップは2年間継続できるため、今年度も引き続き美術館業務に関わらせていただく。2019年度も実り多き一年としたい。